

横断的目標 1

人とのつながりを強化する。

誰もが居場所と役割を持ち活躍できる地域社会を目指し、将来的な移住につながる「関係人口」を創出する。

横断的目標 2

新しい時代の流れを力にする。

国の進める「Society5.0」の実現に向けた技術（未来技術）の活用を推進するとともに、持続可能な開発目標（SDGs）を目指した地方創生を推進する。

勢に、第1期の5年間で進められてきた施策の検証を行い、優先順位を見極めながら地方創生の目指すべき将来像や、今後5か年の目標や施策の方向性などを定めています。そこで、新しい計画のキーワードとなるのが「人のつながり」と「新しい時代の流れ」。この2つを横断的目標として設定し、「SDGs」と「Society5.0」といった全国的・世界的な視点も盛り込まれています。

地方自治体が避けては通れない「地方創生」。総合戦略の策定により、各種連携を一層強化し、地方の活性化を加速させることが期待されています。

地

「方創生」という言葉を一度は耳にしたことがあるかと思いますが、人口急減・超高齢化という日本全体が直面する問題に対し、各地域がそれぞれの特徴を活かした持続可能な社会の創生を目指す。この考え方は、地方自治体の課題として近年取り組まれてきました。東京一極集中や都市部の人口集中により地方消滅の危機が叫ばれる中、さらに重要性を増す地方創生。その声を受けて、平成26年、「まち・ひと・しごと創生法」が施行され、内閣府により「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が打ち出されました。その指針に町の視点を盛り込み、実現を目指して策定されたものが福智町版の総合戦略です。

福智町では町の人口・経済を分析した「人口ビジョン」と具体的な施策や目標を示す「総合戦略」で構成される第1期の総合戦略を5年前に策定。一昨年に策定されたまちづくりの最上位計画である「福智町総合計画」とは異なり、人口対策に特化した内容が特徴です。

今回の「第2期総合戦略」においては「継続は力なり」を基本姿勢

まちの今を知り、未来を創る人口減少打開の鍵

# 総合戦略完成

令和2年3月策定

第2期 福智町 まち・ひと・しごと創生 **総合戦略**

前回の総合戦略の成果を分析し、編成された新たな5か年計画。人口の将来展望を分析した「人口ビジョン」とその対策となる具体的な施策を定めた「総合戦略」で構成される。



SDGsは2015年9月の国連サミットで採択された「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称。国連加盟193か国が2030年を期限として掲げた17の目標で構成されています。各国が力を結集してあらゆる貧困に終止符を打ち、不平等と闘い、気候変動に対処しながら「誰も取り残さない」社会の実現を目指し、経済・社会・環境をめぐる広範な課題に統合的に取り組む世界的指標です。



人類社会発展史における「狩猟社会(Society 1.0)」、「農耕社会(Society 2.0)」、「工業社会(Society 3.0)」、「情報社会(Society 4.0)」に続く「超スマート社会(Society 5.0)」を目指し、日本政府が公式に推し進める5番目の新しい社会のあり方。人工知能(AI)やロボットによる自動走行車、ドローンなどの新技術を通じた社会の変革が人々に豊かさをもたらします。一方で、高度なAIによる自動化が進み、職業形態が大きく変わる可能性も考えられています。

無くなるかもしれない仕事

- ▶ 販売・窓口係 ▶ 料理人
- ▶ 運転手 ▶ データ入力 など

AIやロボットにより事務労働など一部で自動化が進んでおり、今後はさらに加速すると考えられています。

残るとされている仕事

- ▶ 医者 ▶ 教師 ▶ 作家
- ▶ 看護師 ▶ 会社経営者 など

経営・管理やおもてなしなど、創造性が求められる仕事は人間の介入が必要であると考えられます。

平成30年3月策定  
第2次 福智町総合計画

目指す町の姿を明らかにし、10年間の総合的指針となる計画。教育・福祉・生涯学習など多岐にわたる施策を定めた「マスタープラン」とも呼ばれる、まちづくりの最上位計画です。



平成27年10月策定

(第1期) 福智町 まち・ひと・しごと創生 **総合戦略**

国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき策定。国の指針を町単位で分析・検証し、具体的な施策を定めた人口減少克服と地方創生実現の鍵となる5か年計画で、令和2年3月で期間満了。